（２）予察情報－１　予報

予報第１号（令和２年４月２７日）

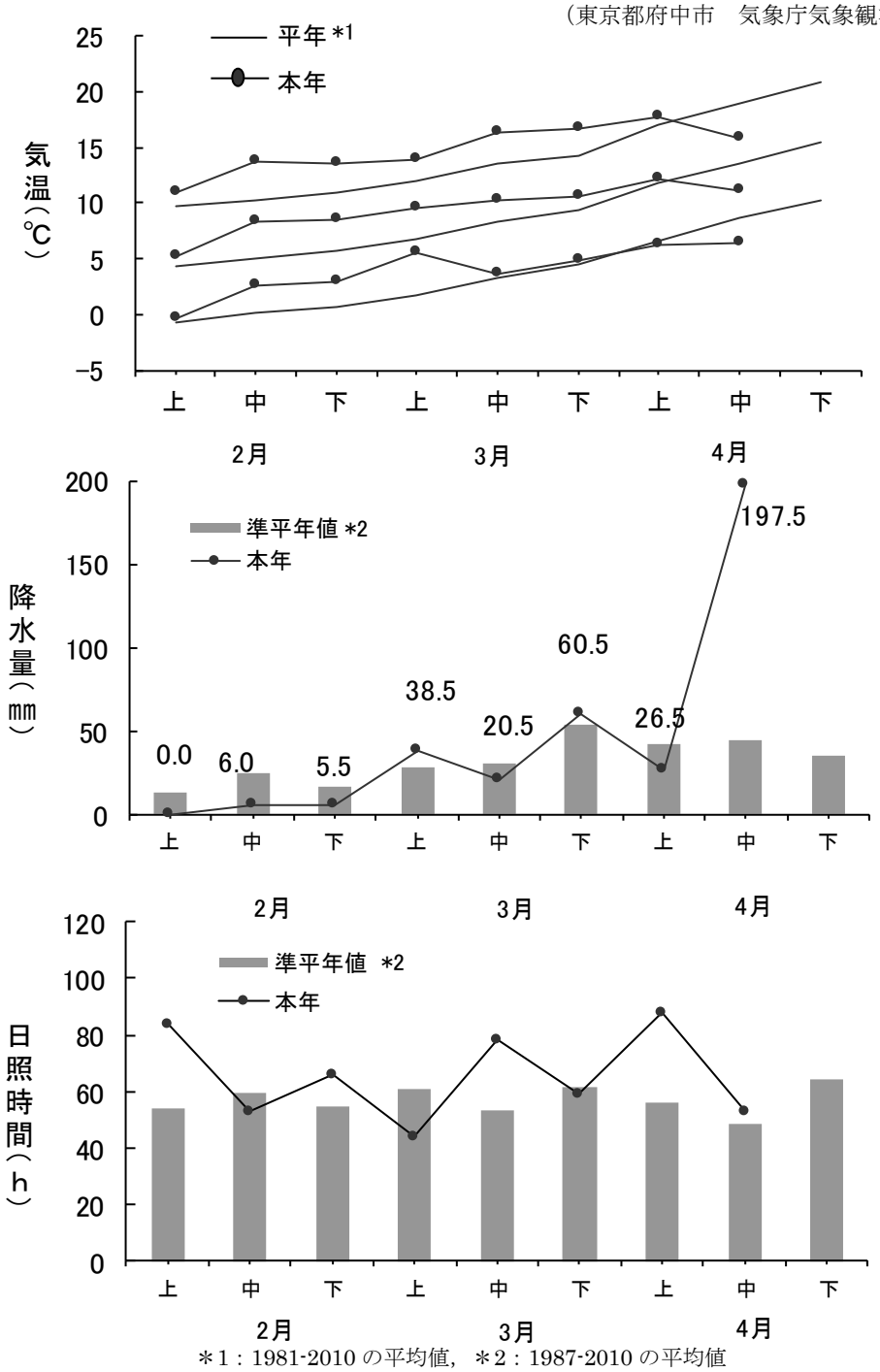
向こう１ヶ月（５月）の予報

【気象予報】令和２年４月２３日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確 率	気　温	２０	４０	４０
	降 水 量	４０	３０	３０
	日照時間	３０	３０	４０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値と本年の４月中旬までのデータを示した。

（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）



＊1：1981-2010 の平均値，＊2：1987-2010 の平均値

５月はチョウ目害虫（ヨトウガ，コナガ，モンシロチョウなど）及び、べと病など病害の防除時期です！

★　チョウ目幼虫による被害は４月の巡回調査では少なく推移していますが、例年、防除適期は連休明けから５月中旬となります。
★　防除指針を参考に薬剤を選択して適期に防除しましょう！

【病害虫発生予報】　（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ．果樹の病害虫

１．ナシの黒斑病・黒星病

予報内容
　発生量　　少
予報の根拠
　１）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）
　２）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（±）
防除上考慮すべき事項
　１）初発を見落とさず，防除指針に従い薬剤を散布する。

２．ナシのアブラムシ類

予報内容
　発生量　　並
予報の根拠
　１）巡回調査では各地とも発生は確認できなかった。（－）
　２）今後，増加期を迎える。（＋）
　３）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）防除指針に従い防除する。
　２）薬剤抵抗性の発達しやすいワタアブラムシやモモアカアブラムシの発生園ではローテーション散布を行う。

３．果樹共通　カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容
　発生時期　　並
　発生量　　並
予報の根拠
　１）東京都福祉保健局の発表によれば，2019 年春のスギ・ヒノキ科の花粉飛散量は過去 10 年の平均とほぼ同程度だった。（±）
　２）フェロモントラップへの飛来時期、飛来数は平年並。（±）
防除上考慮すべき事項
　１）通常，ナシなどの果樹園への飛来は開花期頃からとされるので，飛来に注意する。
　２）袋がけなどで果実への加害を予防する。

Ⅱ．茶樹の病害虫

１．チャノコカクモンハマキ

予報内容
　発生時期　　並
　発生量　　多
　予報の根拠
　１）フェロモントラップによる誘殺数は平年並み。（±）

２）今後増加期を迎える。（＋）
３）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い防除する。

２．カンザワハダニ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
１）巡回調査では，寄生は確認できなかった。（－）
２）今後，増加期を迎える。（＋）
３）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い防除する。
２）一番茶摘採前に防除が間に合わない場合は，摘採後に防除を行う。

Ⅲ．野菜の病害虫

１．トマト灰色かび病　（施設）

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では，各地とも発生は平年並である。（±）
２）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（－）
防除上考慮すべき事項
１）施設内の過湿に注意し，病果，病葉はただちに処分する。
２）防除指針に従い薬剤を散布する。

２．トマト葉かび病（施設）

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では，一部地域を除き発生は少ない。（－）
２）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（－）
防除上考慮すべき事項
１）過繁茂に注意し，古い葉などは適切に除去する。
２）肥料切れになると発病しやすくなるので，肥培管理に注意する。
３）葉かび病抵抗性品種でも発病する場合があるので、圃場内を観察し、発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

３．コマツナ・カブの白さび病（露地）

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では，各地とも発生は平年並である。（±）
２）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（－）
防除上考慮すべき事項
１）密植を避け，雨よけ栽培（トンネルなど）を行う。

４．ネギさび病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では，各地とも発生はやや少ない。（－）
２）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。（±）

防除上考慮すべき事項
1）発生初期を見落とさないように，防除指針に従い薬剤を散布する。

5．ネギ及びタマネギのネギアブラムシ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）巡回調査では，寄生は確認できなかった。(－)
2）今後増加期を迎える。(＋)
3）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）本虫は萎縮病を媒介する。
2）防除指針に従い薬剤を散布する。

6．ネギアザミウマ

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
1）巡回調査では，各地ともネギにおける発生はやや少ない。(－)
2）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）発生初期の防除を徹底する。
2）定植時に土壌施用粒剤を使用する。
3）防除指針に従い薬剤を散布する。

7．コナガ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）巡回調査では，各地とも露地圃場での発生はやや少ない。(－)
2）フェロモントラップによる誘殺数は平年並である。(±)
3）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）例年５月中旬より発生が増加するので，薬剤抵抗性の出現に注意して，系統の異なる薬剤をローテーション散布する（防除指針アブラナ科野菜の各項参照)。

8．ヨトウガ

予報内容
発生時期　　並
発生量　　多
予報の根拠
1）昨秋の発生は各地とも少なかった。(－)
2）フェロモントラップへの誘殺は３月中旬より確認されており，誘殺数は多い。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）発生を見たら防除指針の各作物ごとに薬剤の散布を行う。

9．ネキリムシ類（カブラヤガ及びタマナヤガ）

予報内容
発生量　　多
予報の根拠
1）フェロモントラップ調査では，カブラヤガの誘殺数は平年よりやや多い。(＋)
2）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）各作物ごとに防除指針に従い，定植時および定植前または播種前に土壌施用剤を施用する。

2）被害株周辺の土中にもぐっている幼虫を捕殺する。

１０．コナジラミ類（施設）

予報内容

発生量　　半促成栽培　　並

予報の根拠

1）巡回調査におけるトマトの寄生株率は半促成栽培では２％とやや少ない。(－)

2）今後，増加期に当たる。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

１１．イチゴの灰色かび病（施設）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）巡回調査では，各地とも発生は平年並である。(±)

2）気象予報によると気温は平年並～高く，降水量は少ないと予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

1）施設内の過湿に注意し，病果，病葉はただちに処分する。

2）防除指針に従い薬剤を散布する。

１２．イチゴのハダニ類（施設）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(－)

2）今後，増加期に当たる。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

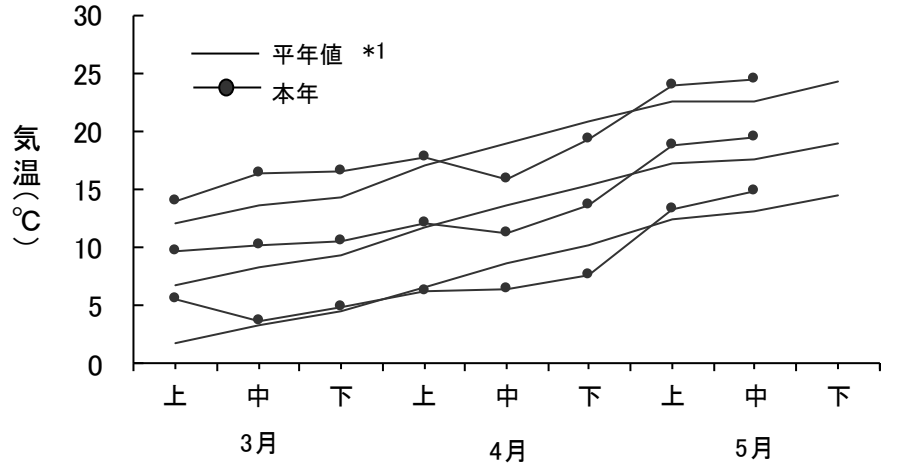
予報第２号（令和２年５月２９日）

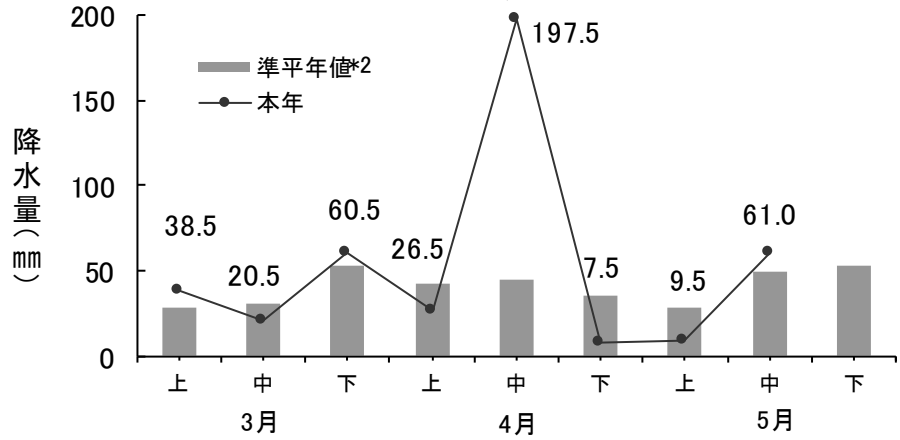
向こう１ヶ月（６月）の予報

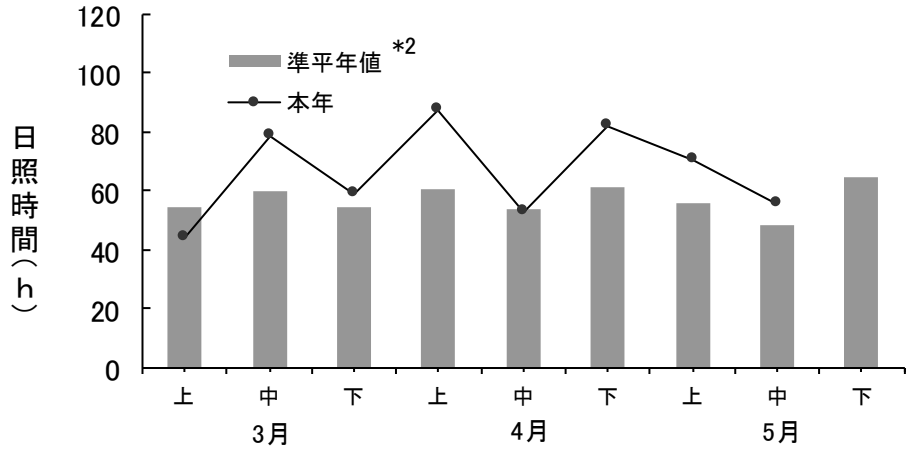
【気象予報】令和２年５月２８日 気象庁 地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確 率	気　　温	１０	２０	７０
	降 水 量	３０	４０	３０
	日照時間	４０	３０	３０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値及び準平年値と本年の５月中旬までのデータを示した。　（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）







＊1：1981-2010 の平均値，＊2：1987-2010 の平均値

6月から8月は農薬危害防止運動を推進しています！

この期間は病害虫等の発生が多くなるため、農薬を使用する機会が多くなります。散布前には必ずラベルを確認するなどして、適正使用を徹底し、農薬による危害を未然に防止しましょう。

★ 住宅地や公共施設周辺での農薬散布には十分な配慮をしましょう！
★ 近隣に影響の少ない天候や時間帯に散布するほか，飛散しにくい農薬や散布ノズルを使用し、飛散防止に努めましょう！
★ 農薬保管庫には必ず鍵をかけて盗難を防止しましょう！
★ 必ず防除記録をつけましょう！

【病害虫発生予報】 （各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ．果樹の病害虫

１．ナシの黒星病

予報内容
　発生量　　少
予報の根拠
　１）巡回調査では各地とも発生は少ない。（－）
　２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（±）
防除上考慮すべき事項
　１）防除指針に従い防除する。

２．ナシのアブラムシ類

予報内容
　発生量　　やや多
予報の根拠
　１）巡回調査では、被害新梢率は 10％と発生は平年並。（±）
　２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）防除指針に従い防除する。

３．果樹共通　果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）

予報内容
　発生量　　やや少
予報の根拠
　１）５月第４半旬のチャバネアオカメムシのフェロモントラップでの誘殺数は、１トラップ当たり 3.5 個体であり、平年の 16.4 個体より少ない。（－）
　２）予察灯への誘殺数は、チャバネアオカメムシは平年並、クサギカメムシは平年より少ない。（－）
　３）サクラへの飛来調査では、チャバネアオカメムシの目撃数は少ない。（－）
　４）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）園内を見て回り早期に飛来状況を把握する。
　２）早期の袋がけや多目的防災網（目合９mm クロス入り）を園全体に展張し、果実への加害を予防する。

Ⅱ．茶樹の病害虫

１．ハマキムシ類

予報内容

発生量　　チ　ャ　ノ　ホ　ソ　ガ：　やや多
　　チャノコカクモンハマキ：　やや多
　　チ　ャ　ハ　マ　キ：　並

予報の根拠

１）フェロモントラップ調査によると、チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ及びチャハマキの誘殺数は平年並。（±、±、±）

２）チャノホソガ及びチャノコカクモンハマキは今後発生量が増加する。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

２．カンザワハダニ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では寄生葉率は０％と少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

Ⅲ．野菜の病害虫

１．トマト灰色かび病（施設・半促成）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも果実の発病は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。

２）防除指針に従い防除する。

２．トマト葉かび病（施設・半促成）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

３．キュウリうどんこ病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

４．キュウリ褐斑病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、施設栽培で発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

３）栽培後期に多発する傾向がある。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

５．キュウリべと病

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では、発生は平年並。（±）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

６．カブ・コマツナの白さび病（露地）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い早めに防除する。

７．ネギさび病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、発生はやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

８．ネギアブラムシ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、寄生株率は０％と少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い薬剤を散布する。

２）ネギ類は薬剤が付着しにくいため展着剤の加用など考慮する。

９．ネギアザミウマ

予報内容

発生量　　多

予報の根拠

１）巡回調査では、ネギにおける被害程度は 47.5 と多い。（＋）

２）今後、増加期が継続する。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項
　１）防除指針に従い薬剤を散布する。

１０．コナガ

予報内容
　発生量　　並
予報の根拠
　１）巡回調査では、キャベツにおける 10 株当たり幼虫・蛹数は 0.4 頭と少ない。（－）
　２）フェロモントラップへの誘殺数はやや多い。（＋）
　３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）薬剤抵抗性の出現に注意して、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
　２）コマツナ・カブなどでは被覆栽培を行い、成虫の侵入を防ぐ。

１１．ヨトウガ

予報内容
　発生量　　やや少
予報の根拠
　１）巡回調査では、キャベツにおける卵・幼虫寄生株率は 0.83％と少ない。（－）
　２）フェロモントラップへの誘殺数は平年並。（±）
　３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）防除指針に従い薬剤を散布する。

１２．コナジラミ類（施設）

予報内容
　発生量　　並
予報の根拠
　１）巡回調査では、半促成トマトにおけるコナジラミ類の寄生葉率は 2.0%と少ない。（－）
　２）今後、増加期が継続する。（＋）
　３）気象予報によれば気温は高いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項
　１）施設周辺の雑草防除を徹底する。
　２）開口部に防虫ネット等を張って外からの成虫の侵入を防ぐ。
　３）今後は黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミ類の発生に注意する必要がある。

１３．露地野菜類のアブラムシ類

予報内容
　発生量　　並
予報の根拠
　１）巡回調査では、キャベツでの発生は少ない。（－）
　２）今後、増加期が継続する。（＋）
　３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
　１）発生を見たら作目ごと、防除指針に従い薬剤を散布する。

１４．ニジュウヤホシテントウ類（テントウムシダマシ）

予報内容
　発生量　　やや多
予報の根拠
　１）巡回調査では、ジャガイモにおける発生は 3.2％とやや少ない。（－）

２）今後、増加期にあたる。（＋）
３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い薬剤を散布する。

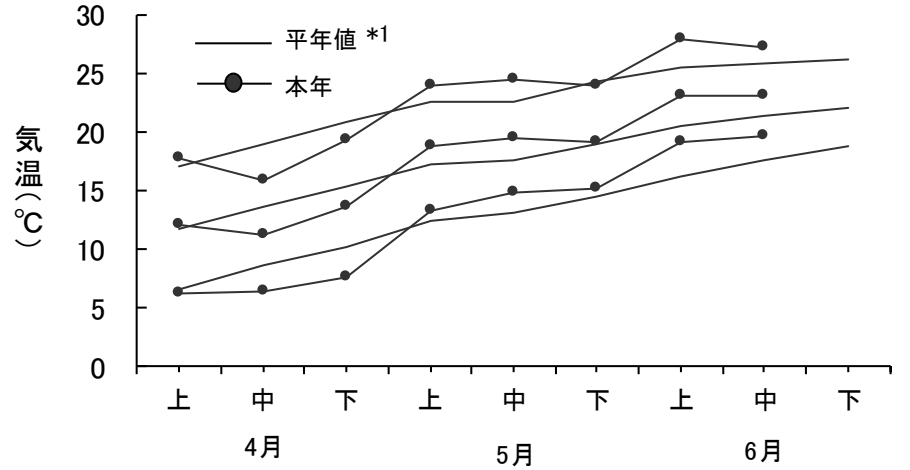
予報第３号（令和２年６月２９日）

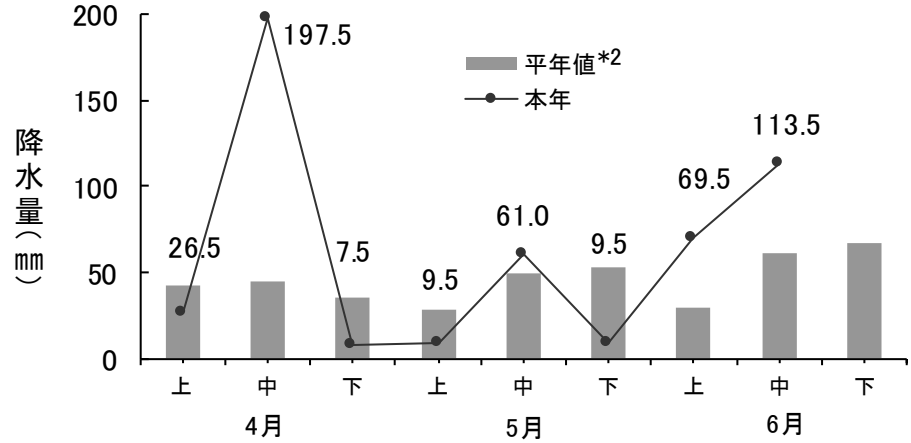
向こう１ヶ月（７月）の予報

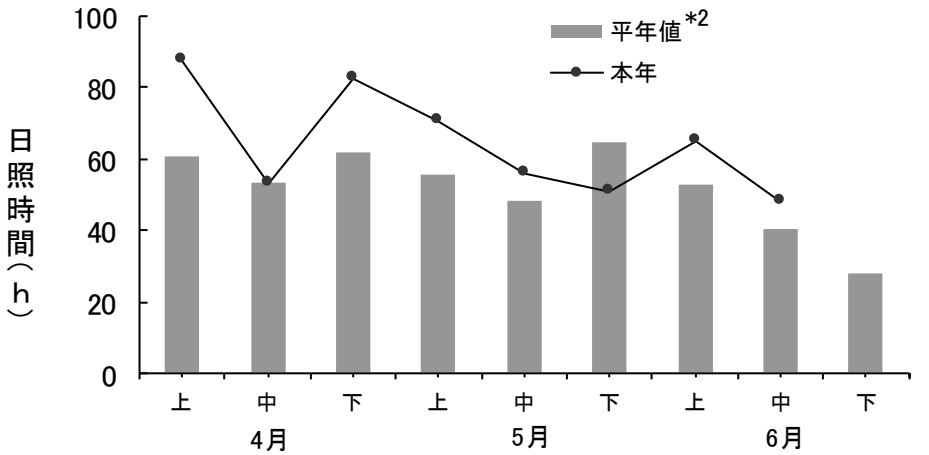
【気象予報】令和２年６月２５日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確 率	気　　温	１０	３０	６０
	降 水 量	３０	４０	３０
	日照時間	４０	３０	３０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値及び準平年値と本年の６月中旬までのデータを示した。　（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）







＊1：1981-2010 の平均値，＊2：1987-2010 の平均値

トマトのアザミウマ類、かいよう病の発生が多くなっています！

★アザミウマ類

果実の白ぶくれ症を引き起こすだけでなく、ウイルス病（黄化えそ病等）も媒介します。今後、気温の上昇に伴い、活動が更に活発になるため、防除時期を逃さないよう圃場を観察し、発生を見逃さないようにしましょう。

★かいよう病

発生を認めたら、カスミンボルドー（ミニトマトには登録がありません）を散布します。また、発病株は早めに処分しましょう。

【病害虫発生予報】　（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ．イネの病害虫

１．いもち病（葉いもち）

予報内容

発生時期　　並

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生を認めたら防除指針に従い防除する。

２）補植用苗は放置すると本病の伝染源となるので，早めに処分する。

２．セジロウンカ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）

２）予察灯調査では，成虫の誘殺数は少ない。（－）

３）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

３．イネミズゾウムシ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）昨夏の発生は少なかった。（－）

２）巡回調査では，各地とも発生量は平年並である。（±）

３）予察灯調査では，誘殺数は平年並である。（±）

４）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

４．斑点米カメムシ（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）圃場周辺のスイーピング調査では各地とも発生は平年並である。（±）

２）予察灯調査では，誘殺数は平年並である。（±）

防除上考慮すべき事項

１）畦畔や水田周辺の樹木園の雑草の草刈りを行う。

Ⅱ．果樹の病害虫

１．ナシの黒星病

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（±）

防除上考慮すべき事項

１）病葉・病果は早期に除去し、適切に処分する。

２）防除指針に従い防除する。

２．ナシのアブラムシ類

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では，被害新梢率は平年並である。（±）

２）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

２）ワタアブラムシは有機リン系薬剤に対して抵抗性を生じている場合が多いのでローテーション散布を行う。

３．ナシのハダニ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では，発生は少ない。（－）

２）今後，増加期に当たる。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

２）薬剤防除は抵抗性を生じやすいのでローテーション散布を行う。

４．果樹共通　カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）フェロモントラップ調査及び予察灯調査では誘殺数は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項
1）今後も園内を見て回り，早期に飛来状況を把握する。
2）多目的防災網の設置や袋がけなどで果実への加害を予防する。
3）飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

Ⅲ．茶樹の病害虫

１．ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ）

予報内容
発生量　　やや多
予報の根拠
1）フェロモントラップ調査では，誘殺数はやや少ない。(－)
2）今後も発生が継続する。(＋)
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い防除する。

Ⅳ．野菜の病害虫

１．キュウリべと病

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）巡回調査では，一部地域を除き発生はやや少ない。(－)
2）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い防除する。
2）梅雨期に降雨が続くと急激に蔓延するので，初期防除を的確に行う。

２．キュウリうどんこ病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
1）巡回調査では，発生は少ない。(－)
2）栽培後期に多発する傾向がある。(＋)
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
1）梅雨明け後に急激に蔓延するので防除が手遅れにならないよう注意する。
2）下葉に発生する初期病斑に留意し，防除指針に従い防除する。

３．トマト葉かび病

予報内容
発生量　　やや少

予報の根拠
1）巡回調査では，施設，露地栽培ともに発生は少ない。(－)
2）栽培後期に多発する傾向がある。(＋)
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い防除する。

４．コマツナ炭疽病（露地栽培）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）梅雨の終期に降雨が連続し，気温が上昇すると発生が多くなる。

２）防除指針に従い防除する。

５．トマトのアザミウマ類（果実の白ぶくれ症）（露地）

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では，発生は平年並である。（±）

２）今後，増加期に当たる。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

６．ネギのネギアザミウマ

予報内容

発生量　　多

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生は多い。（＋）

２）今後，増加期に当たる。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生を認めたら防除指針に従い防除する。

２）アブラナ科野菜や果樹，花卉類など幅広く加害する。

７．アブラナ科作物のコナガ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では，各地とも発生はやや少ない。（－）

２）フェロモントラップ調査では，誘殺数はやや少ない。（－）

３）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）被覆資材などを利用した防除法を活用する。

２）アブラナ科の各野菜ごとに防除指針に従って防除する。

３）薬剤抵抗性の出現に注意して，系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

４）収穫残渣は速やかに埋設するなどの処理を行う。

８．果菜類・スイートコーン（露地栽培）のアブラムシ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では，一部地域を除き発生は少ない。（－）
2）今後，増加期に当たる。（＋）
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）発生を見たら防除指針に従い防除する。

９．スイートコーン（露地栽培）のアワノメイガ，アワヨトウ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）
2）今後，増加期に当たる。（＋）
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）発生をみたら防除指針に従い防除する。

１０．果菜類共通　オオタバコガ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では，露地栽培トマト及びナスでの発生はやや少ない。（－）
2）フェロモントラップ調査では，誘殺数は少ない。（－）
3）今後，増加期に当たる。（＋）
4）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）発生を見たら防除指針に従い防除する。
2）穴あき果や虫糞に注意し，見つけたら放置せず捕殺する。

１１．果菜類共通　チャノホコリダニ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では，各地とも発生は少ない。（－）
2）今後，増加期に当たる。（＋）
3）気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並，日照時間は少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）ナスやピーマンではへたや茎の褐変症状に注意し，発生を見たら発生初期に防除指針に従い防除する。

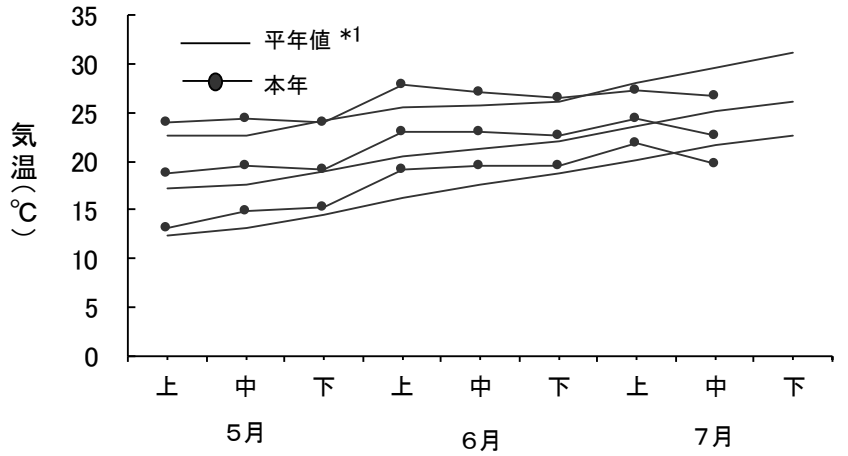
予報第４号（令和２年７月３１日）

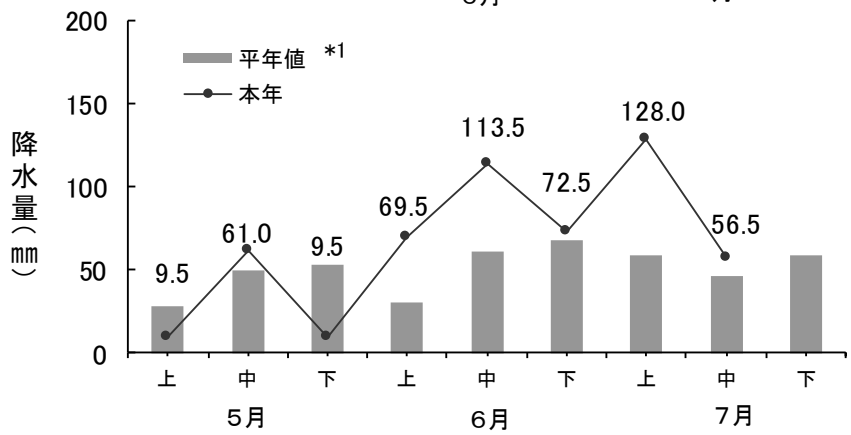
向こう１ヶ月（８月）の予報

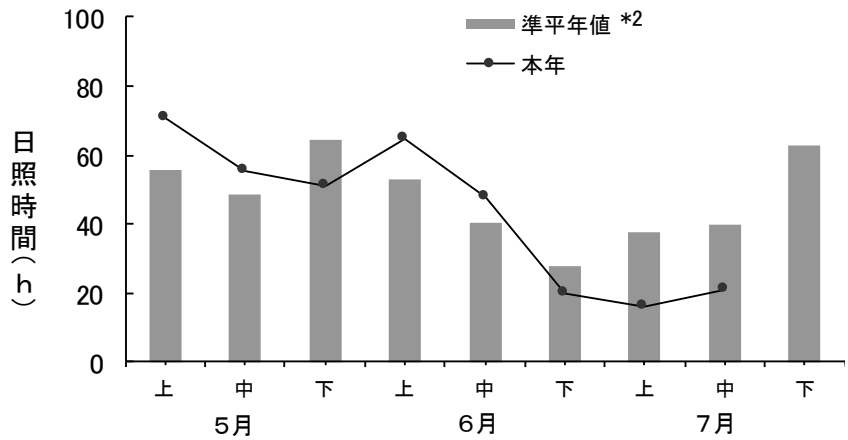
【気象予報】令和２年７月３０日　気象庁　地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確率	気　温	２０	３０	５０
	降 水 量	４０	３０	３０
	日照時間	３０	３０	４０

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値及び準平年値と本年の７月中旬までのデータを示した。　（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）







＊1：1981-2010 の平均値、＊2：1987-2010 の平均値

★トマト黄化葉巻病（TYLCV）の対策を徹底しましょう！

８月から９月は TYLCV の感染が最も多くなる時期です。特に促成長期どり及び抑制栽培では媒介虫であるタバココナジラミの発生に注意し、育苗期から防除を徹底しましょう。

【病害虫発生予報】 （各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ イネの病害虫

１．いもち病

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）巡回調査では、現在の発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（－）

防除上考慮すべき事項

１）今後の天候に留意し、発生の拡大が見られるときには、ただちに防除指針に従い防除する。

２）現在、葉いもちの発生が認められる場合には、今後の穂いもちの発生に十分注意する。

２．紋枯病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は平年並である。（±）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

３．セジロウンカ

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査によるすくい取り調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）

２）予察灯への誘殺数は、平年並である。（±）

３）発生消長からみて今後、増加期に当たる。（＋）

４）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

４．斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ・クモヘリカメムシ）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査による畦畔や休耕田でのすくい取り調査では、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシいずれも平年並である。（±）

２）アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数は、やや少ない。（－）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）畦畔や水田周辺の雑草の草刈りを行う。ただし、出穂前後２週間の間の除草は逆効果となるので注意する。

2）防除指針に従い防除する。

Ⅱ　果樹の病害虫

１．ナシのハダニ類

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針に従い防除する。

２．果樹共通　カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）予察灯への誘殺数及びフェロモントラップへの誘殺数はともに平年より少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）園内を見回り、早期に飛来状況を把握する。

2）飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

Ⅲ　茶樹の病害虫

１．チャノコカクモンハマキ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）フェロモントラップへの誘殺数は、平年並である。(±)

2）８月は減少期に当たる。(－)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）発生の多い園では防除指針に従い防除する。

２．チャハマキ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）フェロモントラップへの誘殺数は、平年並である。(±)

2）８月は減少期に当たる。(－)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）発生の多い園では防除指針に従い防除する。

３．チャノホソガ

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）フェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。（＋）

２）年間の発生消長では今後減少期に当たる。（－）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生の多い園では防除指針に従い防除する。

Ⅳ 野菜の病害虫

１．サツマイモのコガネムシ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）予察灯への誘殺数はアカビロードコガネ、ドウガネブイブイいずれもやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）幼虫の防除は防除指針に従い防除する。

２．ナスうどんこ病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、一部圃場を除き各地とも発生はやや少ない。（－）

２）栽培中期～後期にかけて多発する傾向がある（＋）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（±）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い初期防除に努める。

３．ナスのハダニ類

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）

２）今後、増加期に当たる。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生を見たら防除指針に従い防除する。

４．ナスのニジュウヤホシテントウ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）５月中、第一回の成虫発生は各地のジャガイモでやや少なかった。（－）

２）巡回調査では、ナスの食害はやや少ない。（－）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）成虫・幼虫とも食葉による加害のみならず実も食害する。

2）発生を見たら防除指針に従い防除する。

５．コマツナおよびカブの炭疽病

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針に従い初期防除に努める。

６．アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）フェロモントラップへの誘殺数は、やや少なかった。(－)

2）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）越夏量が多いと秋作アブラナ科野菜での発生が多くなるので放置作物は速やかに処分する。

2）作物ごとに、防除指針に従い防除する。

７．アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では、アブラナ科野菜での寄生は少ない。(－)

2）ここ数年、７月下旬から急速に被害が増加してくる。(＋)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）本種は幼苗を好んで加害し、その被害株は芯止まりとなる事が多い。

2）発見が遅れ、初期防除が遅れると被害が大きくなる。

3）育苗床における防除を徹底する。

4）キャベツ・ブロッコリー等の育苗床やダイコンを寒冷紗等でトンネル栽培をするなど、成虫の飛来を防止する。

5）作物ごとに、防除指針のハイマダラノメイガの項を参照して防除する。

８．ネギ黒斑病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針に従い初期防除に努める。

９．ネギ類のネギハモグリバエ

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(＋)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

１０．ネギ類のネギアザミウマ

予報内容

発生量　　多

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)

２）年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(＋)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

１１．エダマメのシンクイガ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

２）年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(＋)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）さや表面の食害痕および排出糞に注意する。

２）晩生品種ほど被害が大きい。

３）防除指針に従い防除する。

１２．エダマメのカメムシ類

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、カメムシ類の発生は少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）子実を吸汁することにより奇形莢や変色粒を発生させる。

２）防除指針に従い防除する。

１３．野菜共通　ハスモンヨトウ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

２）フェロモントラップへの誘殺数は、平年並である。(±)

３）年間の発生消長から見ると、今後増加期に入る。(＋)

４）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想さ

れる。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）発生を見たら作物ごとに防除指針に従い防除する。

１４．野菜（果菜類）共通　コナジラミ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では、各地ともタバココナジラミの発生は少なく、オンシツコナジラミの発生はやや少ない。(－)

2）年間の発生消長からみると、今後はタバココナジラミの増加期に当たる。(＋)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）圃場周辺の除草を徹底する。

2）施設開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを張りコナジラミ類の侵入を防ぐ。

3）施設では、育苗中を含め、黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の発生状況を監視する。

4）タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。ウイルスに感染した苗は発見次第、直ちに処分する。

5）都内ではバイオタイプ Q のタバココナジラミが多いため、タイプ Q に有効な薬剤で防除指針に従って適正に防除する。

１５．野菜（果菜類）共通　タバコガ類

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査でのトマトの寄生株は少ない。(－)

2）フェロモントラップへの誘殺数は、平年並である。(±)

3）今後、増加期に当たる。(＋)

4）気象予報によれば気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）果菜類の比較的幼果や若い果実を好むので排泄糞に注意する。

2）被害果を放置せず、速やかに処分する。

3）果菜類のほか、キャベツ・レタス・サヤインゲン・バラ・キク・カーネーションなどにも寄生する。

4）防除指針を参考にして防除する。

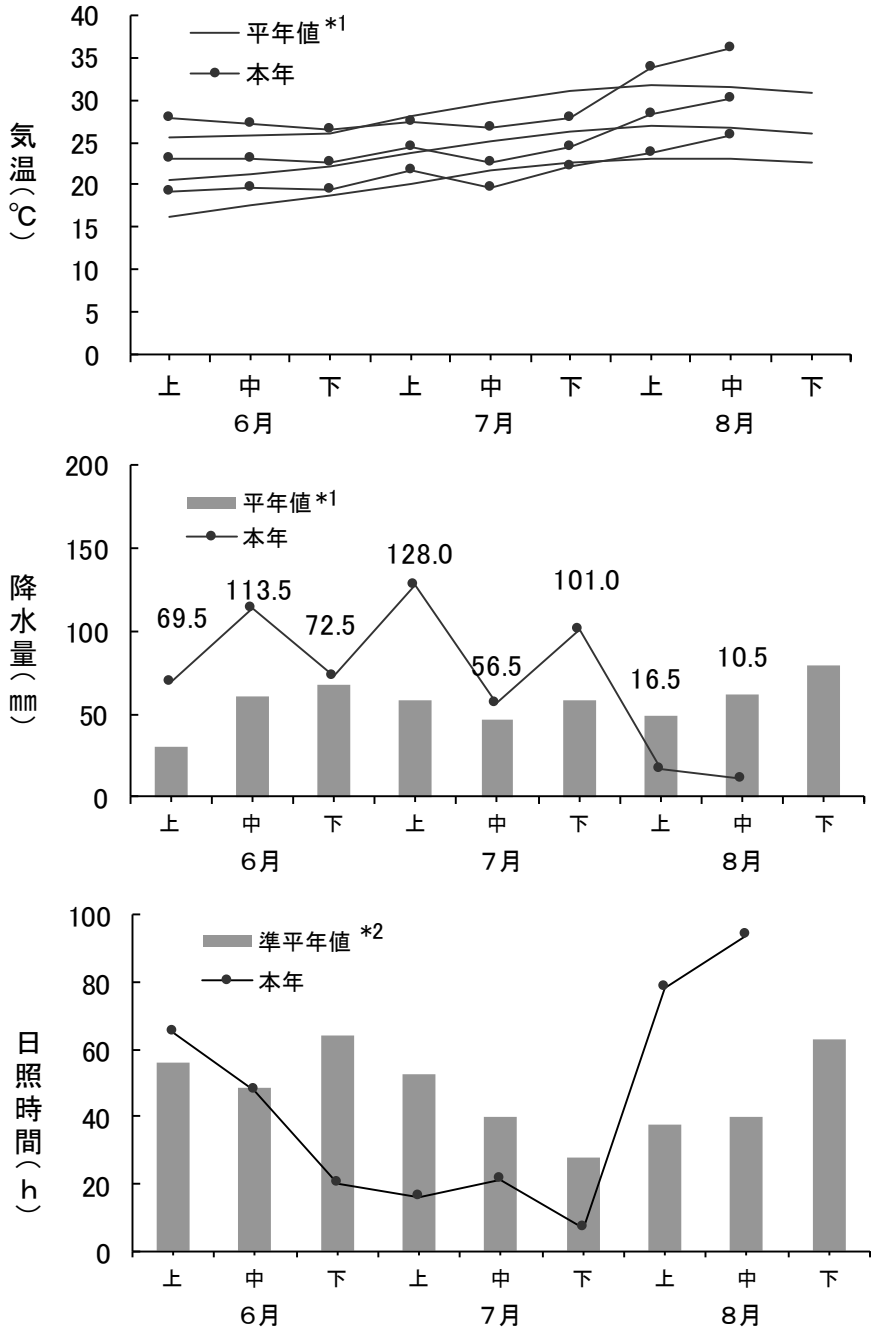
予報第５号（令和２年８月２８日）

向こう１ヶ月（９月）の予報

【気象予報】令和２年８月２７日　気象庁　地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確率	気　　温	１０	１０	８０
	降 水 量	３０	３０	４０
	日照時間	４０	３０	３０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値及び準平年値と本年の８月中旬までのデータを示した。　（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）



＊1：1981-2010 の平均値、＊2：1987-2010 の平均値

ハイマダラノメイガとトマト黄化葉巻病に注意しましょう！

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）

アブラナ科野菜の生長点近くを加害するため、生育が停止したり、枯死することがあります。また、キャベツでは、正常な結球ができなくなります。ほ場をよく観察し防除を徹底しましょう！

トマト黄化葉巻病（TYLCV）

収穫終了後、放置されたままの露地及び施設トマトで本病に感染した株が認められることがあります。

このような株は抑制及び促成長期どり栽培での感染源になりますので、速やかに抜き取り、完全に枯死させてから廃棄しましょう。

施設の場合は、晴天日の連続２日以上の蒸し込みが媒介虫であるタバココナジラミの施設外分散防止に効果的です。

【病害虫発生予報】 （各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ　イネの病害虫

１．いもち病（穂いもち）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも葉いもちの発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば降水量は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）水田をよく観察し、現在、葉いもちの発生が認められる場合は、今後の天候に留意し薬剤を散布する。

２．紋枯病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

３．斑点米カメムシ類（主にアカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ）

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）水田周辺の雑草地におけるすくい取り調査での発生量は、アカヒゲホソミドリカスミカメ及びクモヘリカメムシともに少ない。（－）

２）アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数は、少ない。（－）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。（±）

防除上考慮すべき事項

１）穂揃い、開花の遅れている水田では発生に注意する。

２）防除指針に従い防除する。

３）地域ごとに一斉防除すると防除効果が高い。

４．トビイロウンカ

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生を確認できない。(－)

２）予察灯への誘殺はない。(－)

防除上考慮すべき事項

１）本種は東南アジア等から梅雨期に飛来し、秋にかけて世代を繰り返し密度を増加させる（秋ウンカと呼ばれる)。

２）著しく発生量が多くなると９月下旬から１０月にかけて坪枯れを起こす。

３）発生を見たら防除指針に従い防除する。

５．セジロウンカ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）予察灯への誘殺数は平年並である。(±)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

Ⅱ　果樹の病害虫

１．果樹共通　チャバネアオカメムシ

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）予察灯及びフェロモントラップでの誘殺数はともに少ない。(－、－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）園内を見回り、早期に飛来状況を把握する。

２）飛来数が多い場合は、防除指針に従い防除する。

Ⅲ　茶樹の病害虫

１．炭疽病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

２．カンザワハダニ

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）巡回調査では、寄生葉率は 1.6％で少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）発生の多い園では防除指針に従い防除する。

Ⅳ 野菜の病害虫

１．キャベツの黒腐病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）降雨、虫害、台風等により茎葉が傷つくと発生が助長される。

２）防除指針に従い初期防除に努める。

２．コマツナ及びカブの炭疽病（露地）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

２）雨よけは本病の防除に有効である。

３．アブラナ科野菜類のコナガ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）フェロモントラップ調査では誘殺数は少ない。(－)

３）今後、増加期に当たる。(＋)

４）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針を参照して作物ごとに防除する。

４．アブラナ科野菜類のハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では、一部圃場で発生がやや多かった。(＋)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）作物ごとに防除指針に従い防除する。また防除指針のハイマダラノメイガの項を参照する。

２）播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

３）寄生株率は圃場ごとの変動が大きい。

５．アブラナ科野菜類のキスジノミハムシ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)

２）予察灯への誘殺数は平年並である。(±)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）作物ごとに防除指針に従い防除する。

２）播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

６．ナスのうどんこ病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い初期防除に努める。

７．ナスのハダニ類

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

８．ナスのチャノホコリダニ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

９．ネギのさび病

予報内容

発生量　　少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

１０．ネギの黒斑病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

１１．野菜共通　コナジラミ類

予報内容

発生量　　オンシツコナジラミ：やや少

タバココナジラミ　：並

予報の根拠

１）巡回調査ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミともに発生はやや少ない。(－、－)

２）タバココナジラミは今後、増加期にあたる。(＋)

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）0.4㎜以下の目合いの防虫ネットや近紫外線除去フィルムの展張など、物理的防除に努める。

2）都内ではタバココナジラミのうちバイオタイプQが占めているため、バイオタイプQに有効な薬剤を選択し、適正に使用する。

3）トマト黄化葉巻病の発病株は発見次第、直ちに抜き取って処分する。

１２．野菜共通　ハスモンヨトウ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

2）フェロモントラップ調査では、誘殺数は平年並である。(±)

3）今後、増加期に当たる。(＋)

4）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針を参考にして作物ごとに防除する。

2）本種は突然多発することがあるので、今後、葉裏への産卵に注意する。

１３．野菜共通　カブラヤガ（ネキリムシ）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）フェロモントラップ調査では、誘殺数はやや少ない。(－)

2）今後、増加期に当たる（＋）

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）定植苗に被害が出たら周辺を掘り起こして捕殺する。

2）防除指針を参考にして作物ごとに防除する。

１４．野菜共通　オオタバコガ

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

2）フェロモントラップ調査では誘殺数は少ない。(－)

3）今後、増加期に当たる。(＋)

4）気象予報によれば気温は高く、降水量は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）果菜類の幼果や花き類の蕾を好むので排泄糞に注意する。被害果や花蕾は放置せず、速やかに処分する。

2）キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、カーネーションなども加害する。

3）作物ごとに防除指針を参考にして防除する。

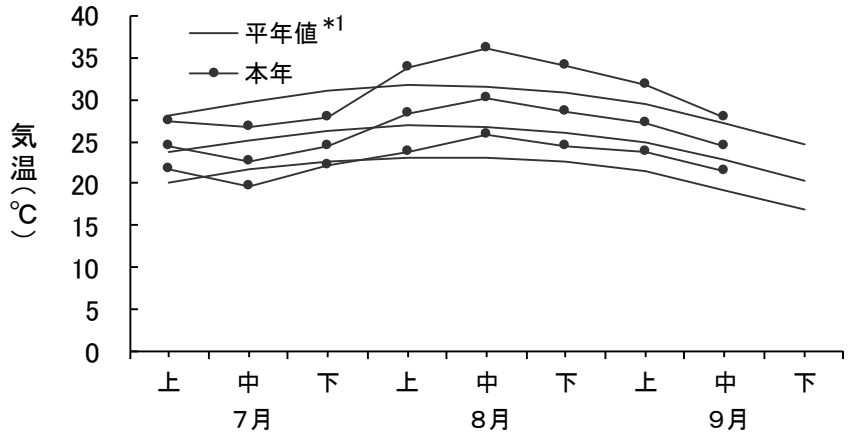
予報第６号（令和２年９月２９日）

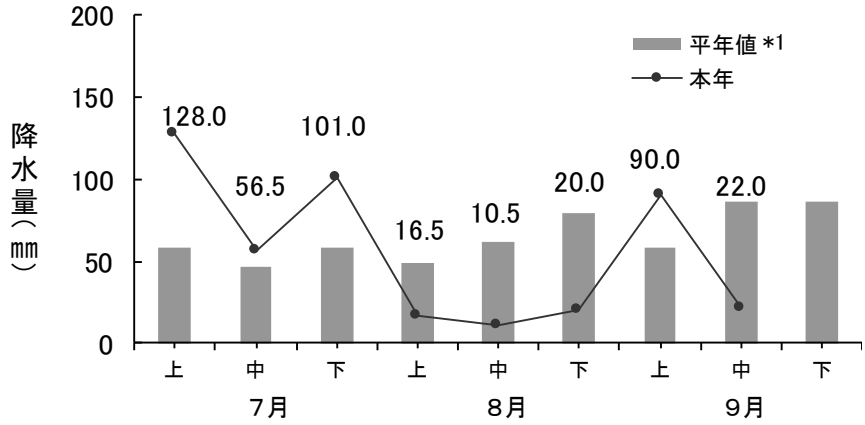
向こう１ヶ月（10 月）の予報

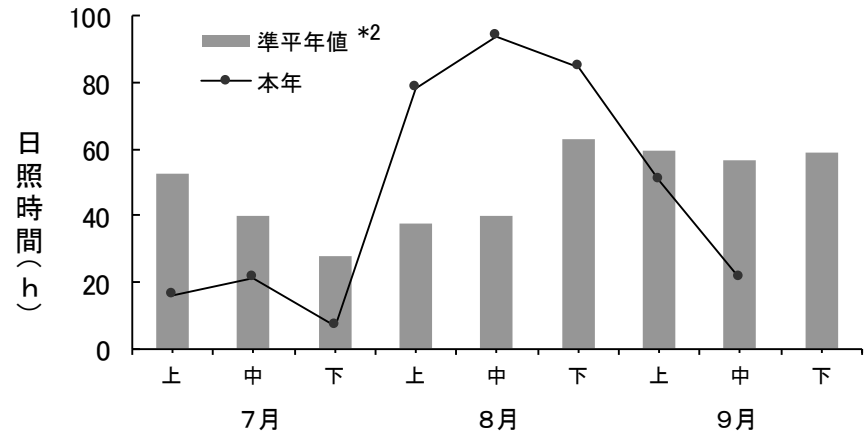
【気象予報】令和２年９月２４日 気象庁　地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確率	気　温	２０	３０	５０
	降 水 量	４０	４０	２０
	日照時間	３０	３０	４０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値及び準平年値と本年の９月中旬までのデータを示した　（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）







＊1：1981-2010 の平均値、＊2：1987-2010 の平均値

野菜の病害虫の発生に注意しましょう！！

この時期に不順な天候が続くと、軟腐病や黒腐病をはじめとする細菌性病害の発生が増加します。細菌性病害は病勢の進展が早く、多発すると防除が難しくなりますので、注意が必要です。

★　圃場を注意深く観察し、初発生を見逃さないようにしましょう。

★　風雨による傷や害虫の食害痕より細菌が侵入するため、害虫防除を行うとともに、大雨の後は天候が回復次第、防除指針を参考に薬剤散布を行いましょう。

害虫ではヨトウムシ類やタバコガ類の発生が増えてきます。あっという間に食害が拡大する恐れがありますので、早めの防除を心掛けましょう。

【病害虫発生予報】　（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ　果樹の病害虫

１．カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）チャバネアオカメムシのフェロモントラップ調査では誘殺数は少なく、予察灯による誘殺数はやや少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い防除する。

Ⅱ　茶樹の病害虫

１．炭疽病

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、一部地域を除き発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（±）

防除上考慮すべき事項

１）発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

２．カンザワハダニ

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

１）巡回調査では寄生葉率は 10.8％であった。（－）

２）年間の発生消長は今後やや増加傾向を示す（越冬世代となる）。（＋）

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）発生の多い園では防除指針に従い防除する。

Ⅲ　野菜の病害虫

１．キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ダイコンの細菌病（軟腐病、黒腐病、黒斑細菌病）

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では一部圃場を除き発生は少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針に従い防除する。

2）病原細菌は害虫の食害痕などから侵入するので、害虫の防除を徹底する。

3）台風や強風の後には直ちに薬剤を散布する。

2．コマツナおよびカブの炭疽病

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では露地の一部圃場を除き発生は少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1）雨よけ栽培または施設栽培を行う。

2）防除指針に従い初期防除に努める。

3．コマツナおよびカブの白さび病

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

1）巡回調査では各地とも発生は少ない。(－)

2）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(－)

3）今後、増加期に向かう。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）雨よけ栽培または施設栽培を行う。

2）防除指針に従い初期防除に努める。

4．アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量　　並

予報の根拠

1）巡回調査では、全般的に発生はやや少ない。(－)

2）フェロモントラップ調査では誘殺数はやや少ない。(－)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）防除指針を参照して作物ごとに防除する。

5．アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠

1）巡回調査では、各地ともアブラナ科作物での発生はやや多い。(＋)

2）年間の発生消長は今後減少に向かう。(－)

3）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

1）作物ごとに防除指針に従い防除する。また防除指針のハイマダラノメイガの項を参照する。

2）播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

6．アブラナ科野菜のヨトウガ

予報内容

発生量　　やや多

予報の根拠
１）巡回調査では、発生はやや多かった。（＋）
２）フェロモントラップ調査では誘殺数はやや少ない。（－）
３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針を参照して作物ごとに防除する。

７．アブラナ科野菜のキスジノミハムシ
予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では各地とも発生はやや少ない。（－）
２）年間の発生消長は、今後減少に向かう。（－）
３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い防除する。
２）播種後から寒冷紗などの被覆資材により侵入を防止する。

８．ナスうどんこ病
予報内容
発生量　　やや多
予報の根拠
１）巡回調査では一部圃場で発生は多い。（＋）
２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い初期防除に努める。

９．キュウリ褐斑病（施設）
予報内容
発生量　　少
予報の根拠
１）巡回調査では各地とも発生は少ない。（－）
２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（±）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い初期防除に努める。

１０．キュウリうどんこ病（施設）
予報内容
発生量　　並
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。（－）
２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い防除する。
２）防除の際には、葉裏面にも薬剤が良くかかるように散布する。
３）施設内の過湿に注意する。

１１．ホウレンソウべと病
予報内容
発生量　　少
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）
２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（－）

防除上考慮すべき事項
1）発生を認めたら防除指針に従い防除する。
2）施設では、密植・過灌水に注意する。

１２．ネギさび病

予報内容
発生量　　少
予報の根拠
1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
2）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
1）発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

１３．ネギ黒斑病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
1）巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(－)
2）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い初期防除に努める。

１４．ネギハモグリバエ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）巡回調査では発生量は平年並であった。(±)
2）年間の発生消長は、今後減少に向かう。(－)
3）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い防除する。

１５．ネギアザミウマ

予報内容
発生量　　やや多
予報の根拠
1）巡回調査では発生量はネギではやや多い。(＋)
2）年間の発生消長は、今後減少に向かう。(－)
3）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針を参考にして防除する。

１６．野菜共通　コナジラミ類

予報内容
発生量　　オンシツコナジラミ：やや多
　　タバココナジラミ　：やや多
予報の根拠
1）巡回調査での発生量はオンシツコナジラミはやや少なく、タバココナジラミは平年並であった。(－、－)
2）オンシツコナジラミは今後増加期にあたる。(＋)
3）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）0.4㎜目合いの防虫ネットやUVカットフィルムの展張など、物理的防除に努める。

２）都内ではタバココナジラミのうちバイオタイプ Q が占めているため、タイプ Q に有効な薬剤を選択し、適正に使用する。
３）トマト黄化葉巻病発病株は発見次第、直ちに抜き取って処分する。

１７．野菜共通　ハスモンヨトウ

予報内容
発生量　　やや多
予報の根拠
１）巡回調査では、発生量は平年並であった。（±）
２）フェロモントラップ調査では、誘殺数はやや多い。（＋）
３）今後も発生は継続する。（±）
４）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）卵塊で産卵されるので若齢幼虫が分散しないうちに葉ごと切除し処分する。
２）発生を見たら防除指針に従い防除する。

１８．野菜共通　オオタバコガ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生量はやや少ない。（－）
２）フェロモントラップ調査の誘殺数はやや少ない。（－）
３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）果菜類の幼果や花き類の蕾を好むため、被害果や被害花雷は放置せず、速やかに処分する。
２）キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、シクラメンなども加害する。
３）防除指針を参考にして防除する。

Ⅳ　花きの病害虫

１．シクラメンのホコリダニ類

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）
２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（＋）
防除上考慮すべき事項
１）花蕾や新葉の奇形を確認したら、10 倍以上のルーペ等で観察するか、不明な場合は病害虫防除所や普及センターに相談する。

２．花き共通　灰色かび病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では発生量は少ない。（－）
２）今後、増加期に向かう。（＋）
３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想される。（－）
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従って薬剤を散布する。
２）施設では朝晩の加湿・結露に注意する。
３）同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行う（薬剤耐性菌の発生回避）。

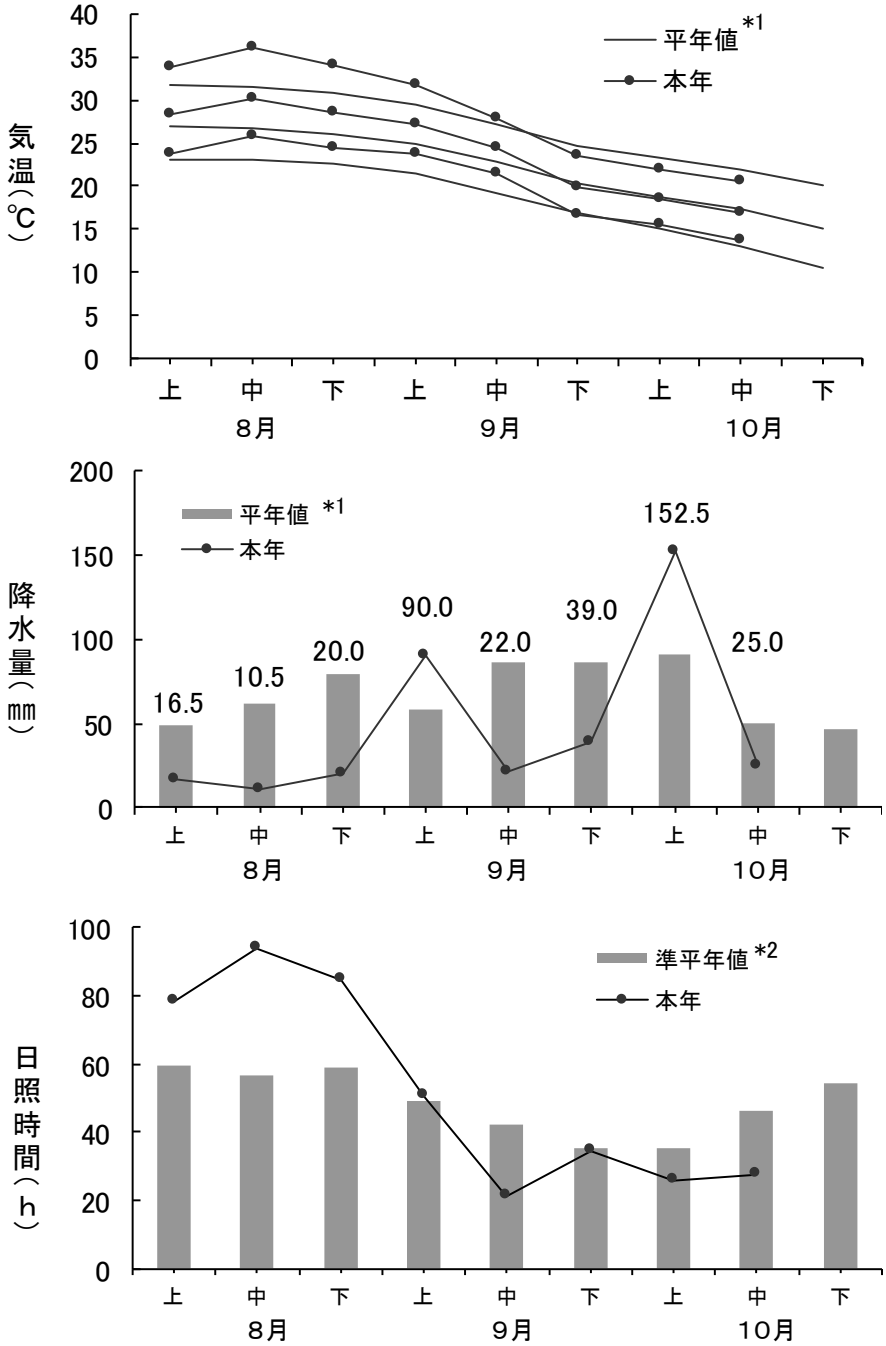
予報第７号（令和２年１０月３０日）

向こう１ヶ月（11 月）の予報

【気象予報】２０２０年１０月２９日 気象庁　地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確率	気　温	２０	４０	４０
	降 水 量	４０	４０	２０
	日照時間	３０	３０	４０

【気温・降水量・日照時間の経過】　平年値及び準平年値と本年の１０月中旬までのデータを示した。（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）



＊1：1981-2010 の平均値、＊2：1987-2010 の平均値

施設野菜、花きの灰色かび病に注意しましょう！！

これからの時期、施設野菜、花き等で灰色かび病の発生が増えてきます。防除指針を参考に収穫前日数に注意し、予防的に防除しましょう。

★ 咲き終わった花弁や発病果、発病葉は早目に取り除きましょう！
★ ハウス内が過湿にならないよう換気やかん水に注意して下さい。
★ 循環扇や暖房機等を活用し、植物体表面の結露を除去しましょう！
★ 薬剤散布の際は、耐性菌出現防止のため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行いましょう！

【病害虫発生予報】 （各根拠に記した( )内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ．野菜の病害虫

１．キャベツの菌核病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
１）天候に留意し、防除指針に従い予防的に防除する。
２）薬剤の散布にあたっては、収穫前日数に注意する。
３）罹病株は翌春の発生源となるので、早めに処分する。

２．キャベツ、ブロッコリーの黒腐病、黒斑細菌病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い予防的に防除する。
２）ブロッコリーは黒腐病に感受性が高いので今後の発生に注意する。

３．ハクサイ軟腐病

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
１）巡回調査では、アブラナ科野菜において各地とも発生は少ない。(－)
２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(±)
防除上考慮すべき事項
１）防除指針に従い予防的に防除する。

４．コマツナ、カブの白さび病

予報内容
発生量　　少
予報の根拠
１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項
1）密植を避け、施設では過湿に注意する。
2）防除指針に従い防除する。

５．ネギのさび病

予報内容
発生量　　少
予報の根拠
1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
2） 気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(－)
防除上考慮すべき事項
1）防除指針に従い初期防除に努める。

６．アブラナ科野菜のコナガ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない。(－)
2）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
3） 気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）作物ごとに防除指針に従い防除する。
2）収穫後の残渣の処理を徹底して行う。

７．アブラナ科野菜のアブラムシ類

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
2）アブラムシ類は各種ウイルス病を媒介するが、各地とも発病は少ない。(－)
3） 気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）作物ごとに防除指針に従い防除する。
2）薬剤に対する抵抗性が発達している場合があるので、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

８．ホウレンソウのシロオビノメイガ

予報内容
発生量　　並
予報の根拠
1）巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
2）予察灯への成虫の飛来は平年並である。(＋)
3） 気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。(＋)
防除上考慮すべき事項
1）寒冷紗などの被覆資材により侵入を防止する。

９．ホウレンソウのモモアカアブラムシ

予報内容
発生量　　やや少
予報の根拠
1）巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)

２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）防除指針に従い薬剤を散布する。

１０．トマトサビダニ（施設）

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば、気温は平年並～高いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）今後、春の増加期に被害を出さないため、防除指針に従い防除する。

Ⅱ．花きの病害虫

１．シクラメンのホコリダニ類

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば、気温は平年並～高いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

１）花蕾や新葉の奇形を確認したら、10 倍以上のルーペ等で観察するか、不明な場合は病害虫防除所や普及センターに相談する。

Ⅲ．野菜および花き類の共通病害虫

１．灰色かび病

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）

２）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。（±）

防除上考慮すべき事項

１）施設内の過湿に注意し、罹病株や罹病残渣を施設内に放置しない。

２）防除指針に従い初期防除に努める。

３）薬剤耐性菌の発達を避けるため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

２．タバコガ類

予報内容

発生量　　やや少

予報の根拠

１）巡回調査では、各地とも発生は少ない。（－）

２）フェロモントラップにおける誘殺数は平年並であった。（±）

３）気象予報によれば気温は平年並～高く、降水量は少ない～平年並と予想される。（＋）

４）年間の発生消長は今後減少に向かう。（－）

防除上考慮すべき事項

１）果菜類の幼果や花き類の蕾を好むので排泄糞に注意、被害果や花雷を放置せず、速やかに処分する。

2）キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、カーネーションなども加害する。
3）防除指針を参考にして防除する。

3．コナジラミ類（施設）

予報内容

発生量　　オンシツコナジラミ：やや少
　　タバココナジラミ　：やや少

予報の根拠

1）巡回調査では、各地とも両種の発生は少ない。（－）
2）気象予報によれば気温は平年並～高いと予想される。（＋）

防除上考慮すべき事項

1）今後、野外から施設内への侵入はほとんどないと思われるが、現時点で発生の多い施設では、防除指針に従い速やかに防除する。
2）トマトでは黄化葉巻病の発生が確認されているので、タバココナジラミが発生している場合にはバイオタイプ Q に効果がある薬剤で速やかに防除する。

予報第８号（令和３年３月２６日）

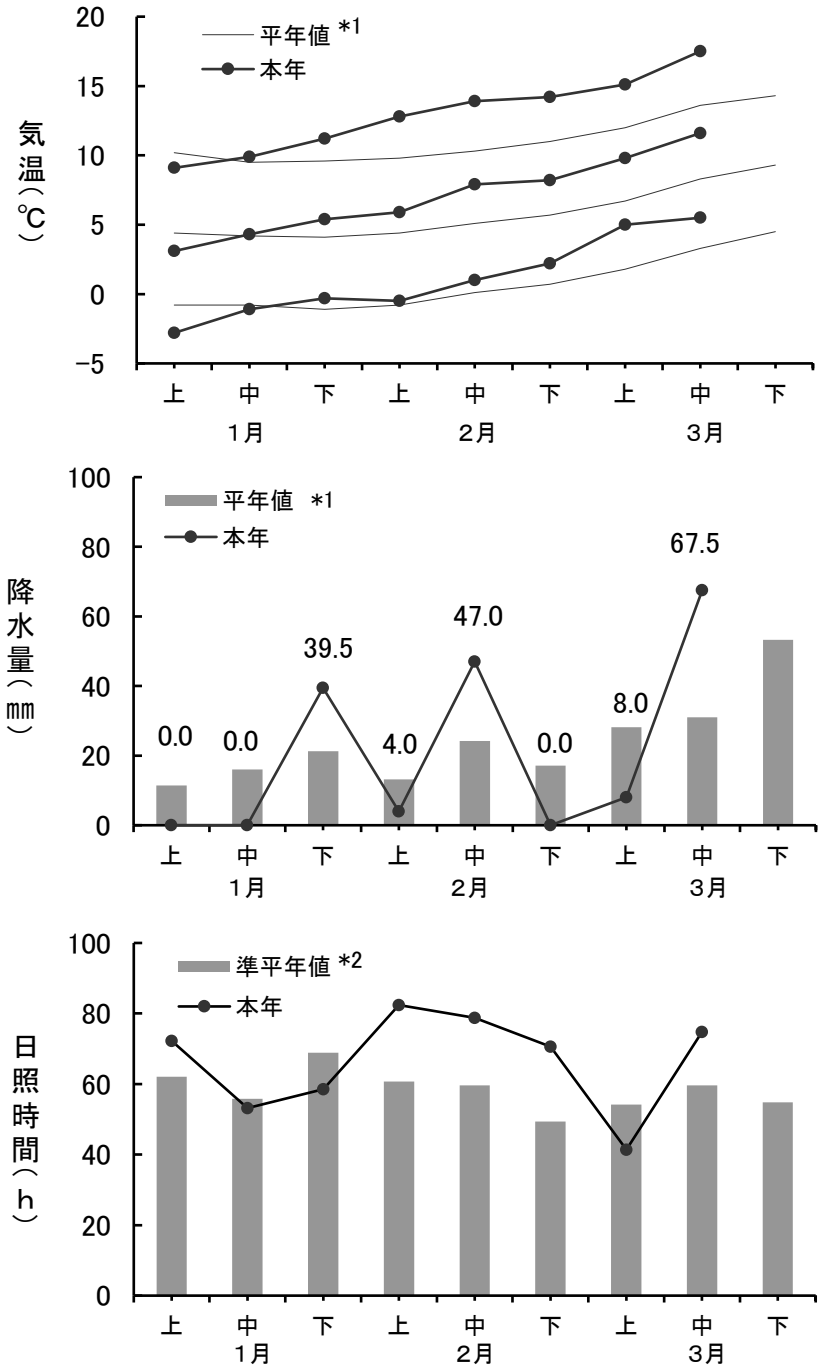
向こう１ヶ月（４月）の予報

【気象予報】２０２１年3月２５日 気象庁 地球環境・海洋部発表、関東甲信地方の１か月予報より

	要　素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
確率	気　温	１０	２０	７０
	降 水 量	３０	４０	３０
	日照時間	３０	４０	３０

【気温・降水量・日照時間の経過】　準平年値と本年の３月中旬までのデータを示した。

（東京都府中市　気象庁気象観測所データ）



＊1：1981-2010 の平均値、＊2：1987-2010 の平均値

トマト・イチゴ灰色かび病の発生に注意しましょう！

★　３月の定期巡回調査等においてトマトにおける灰色かび病の発生はやや少ない状況でした。

★　この時期は暖房機稼働時間の減少に伴い、夜間のハウス内が多湿になりやすくなるため発生が増加する傾向にあります。

★　循環扇や暖房機等を活用し、施設内の温湿度をコントロールしましょう！

★　咲き終わった花弁や発病果、発病葉は早目に取り除きましょう！

★　薬剤散布の際は、初期防除を徹底し、耐性菌出現防止のため系統の異なる薬剤のローテーション散布を行いましょう！

【病害虫発生予報】　（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

Ⅰ．茶樹の病害虫

１．カンザワハダニ

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、発生はやや少なかった（－）。

２）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（＋）。

防除上考慮すべき事項

１）４月中旬より個体数が増加すると考えられるので、萌芽前に防除指針に従い防除する。

Ⅱ．野菜の病害虫

１．トマト灰色かび病（施設）

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１）巡回調査等では、発生はやや少なかった（－）。

２）今後、本病の増加しやすい時期に入る（＋）。

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（±）。

防除上考慮すべき事項

１)施設内が過湿にならないように注意し、罹病果実等は施設外に持ち出し、適切に処分する。

２)防除指針を参考に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

２．トマト葉かび病（施設）

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１）巡回調査では、発生はやや少なかった(－)。

２）今後、本病の増加しやすい時期に入る（＋）。

３）気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（±）。

防除上考慮すべき事項

１）病斑の多発した葉は除去する。

２）葉かび病抵抗性品種でも発生する場合があるため、発生を認めた場合は速やかに防除指針を参考に防除する。

３)類似症状を示す「すすかび病」が発生している場合があるので注意する。

３．ネギさび病

予報内容

発 生 量　　やや少

予報の根拠

１)巡回調査では、各地とも発生は少なかった(－)。

２)昨年、秋期の発生は少なく、越冬菌密度は少ないと考えられる（－)。

３)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（±)。

防除上考慮すべき事項

１)発生初期に防除指針を参考に防除する。

４．イチゴ灰色かび病（施設）

予報内容

発 生 量　　やや多

予報の根拠

１)巡回調査では、各地とも発生は平年並である(±)。

２)今後、本病の増加しやすい時期に入る（＋)。

３)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（±)。

防除上考慮すべき事項

１)施設内が過湿にならないように注意し、罹病果実等は施設外に持ち出し、適切に処分する。

２)摘花、摘葉した傷口からも発病しやすいので注意する。

３)防除指針を参考に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

５．コナガ

予報内容

発 生 量　　やや少

予報の根拠

１)巡回調査によると、各地とも発生量は少ない(－)。

２)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（＋)。

防除上考慮すべき事項

１)苗圃では、防虫網などを利用して、成虫の侵入を防止する。

２)防除指針を参考にして、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

６．コナジラミ類（施設）

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１)巡回調査によると、各地とも発生はやや少ない(－)。

２)気象予報によれば気温は高いと予想される（＋)。

防除上考慮すべき事項

１)今後気温の上昇と共に増加するので、防除指針に従い適期防除を行う。

２)タバココナジラミが確認された圃場では、バイオタイプＱに効果のある薬剤を散布する。

７．ハモグリバエ類（施設）

予報内容

発 生 量　　やや少

予報の根拠

１)巡回調査によると、ハモグリバエ類の発生は各地とも少ない（－)。

２)気象予報によれば気温は高いと予想される（＋)。

防除上考慮すべき事項

１)防除指針に従い防除する。

８．ホウレンソウ及びコマツナのアブラムシ類

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１)巡回調査によると、各地とも発生はやや少ない（－)。

２)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（＋)。

防除上考慮すべき事項

１)発生を見たら防除指針に従い防除する。

９．ネギ・タマネギのネギアブラムシ

予報内容

発 生 量　　やや少

予報の根拠

１)巡回調査によると、各地とも発生は少ない（－)。

２)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（＋)。

防除上考慮すべき事項

１)防除指針に従い防除する。

２)ネギアブラムシは萎縮病を媒介するので注意する。

１０．ネギアザミウマ

予報内容

発 生 量　　並

予報の根拠

１)巡回調査では、各地ともネギにおける発生はやや少ない。(－)

２)気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される（＋)

防除上考慮すべき事項

１)発生初期の防除を徹底する。

２)定植時に土壌施用粒剤を使用する。

３)防除指針に従い薬剤を散布する。

１１．イチゴのハダニ類（施設）

予報内容

発 生 量　　やや多

予報の根拠

１)巡回調査によると、各地とも発生はやや少ない（－)。

２)気象予報によれば気温は高いと予想される（＋)。

３)今後、増加期に当たる。(＋)

防除上考慮すべき事項

１)防除指針に従い適期防除を行う。